



令和6・7年度

～石川県社会教育委員の会議のまとめ～

# ウェルビーイングの実現をめざした 学校を核とした地域づくり

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進をとおして～

※ コミュニティ・スクール（CS）…学校運営協議会を設置した学校

## 協議題

### ウェルビーイングの実現をめざした学校を核とした地域づくり

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進をとおして～

## 仮説

コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、熟議をとおして学校と地域の課題解決に取り組むことによって、**学校のさらなる魅力化が進み**、ひいては**地域コミュニティの活性化**、**地域住民の幸福感につながる**のではないかと考えます。

## 方法

- ・CSモデル校の実践やCSマイスター等識者の話を直接聞き、コミュニティ・スクールの仕組みや学校を核とした地域づくりについて理解を深める。
- ・先進的にコミュニティ・スクールを導入している事例をもとに、**学校の魅力化と地域のウェルビーイングにつながる可能性**について協議を進める。



お問い合わせ先

令和8年3月

石川県社会教育委員の会議

金沢市鞍月1丁目1番地

電話：076-225-1837 メール：syakai-ed@pref.ishikawa.lg.jp

## 令和6年度 社会教育委員の会議の内容

★：学校の魅力化につながること

●：地域コミュニティの活性化・住民の幸福感につながること

【第1回】令和6年8月29日(木)

〈講義「楡葉町におけるCSと地域学校協働活動の一体的推進」〉

CSマイスター 猿渡 智衛 氏

猿渡氏は、福島県楡葉町において、CSと地域学校協働活動を一体的に推進し、地域住民や関係機関と連携しながら、震災後に希薄化した人々のつながりを学校を核に再構築してきた取組を紹介した。学校が地域の対話や参画の拠点となることで、コミュニティ再生につながることを学んだ。

【委員からの意見】

- 公民館等での学習支援が子どもの居場所づくりに寄与する。
- 地域文化の継承や体験活動が学校の学びを広げ、住民の誇りやつながりを生む。
- 登下校の見守りや地域活動が子どもの安心と大人の役割実感につながる。

【第2回】令和6年11月8日(金)

〈「全国コミュニティ・スクール研究大会in金沢」への参加〉

金沢市で開催された全国コミュニティ・スクール研究大会に参加。パネルディスカッションや分科会をとおして全国の事例を知り、見聞を広げた。

【委員からの意見】

- ★●既に学校運営協議会として活動しているが、より一層CSや地域学校協働活動の仕組みや熟議について理解を深めたい。
- ★●他県の好事例についてもっと知る機会があったらよい。
- ★●CSや地域学校協働活動の具体的な進め方について、実践例をもとに継続的に学び、現在の取組の改善につなげていきたい。



【第3回】令和7年1月17日(木)

〈講義「CSと地域学校協働活動の一体的推進～妙高市立斐太北小学校の取組をとおして～」と演習〉

CSマイスター 小見 まい子 氏

小見氏の斐太北小学校の事例を通して、熟議による課題共有や学校運営協議会委員の独立組織、SNS活用による連携強化、持続可能な開発のための教育を基盤とした地域協働学習等、CSと地域学校協働活動を一体で進める効果について学んだ。

【委員からの意見】

- ★地域の人・自然・文化などの資源を取り入れることで、学校だけでは実現できない本物の体験に基づく学びが生まれる。
- 地域の実情に応じて、多様な組織との連携が必要である。
- CSという仕組みを利用すると、参加者が増え、住民の自己有用感が高まる。

【第4回】令和7年3月21日(金)

〈講義「ウェルビーイングの実現をめざした学校を核とした地域づくり～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を通して～」と協議〉

CSマイスター 香山 真一 氏

香山氏から、校長としてのCS導入経験や県立高校でのCS推進に向けた助言を受け、県立学校にCSモデル校を設置する際に地域住民や関係団体が担える取組と、それが学校の魅力化にどうつながるかについて協議した。

【委員からの意見】

- ★企業や多様な団体との連携で、高校段階でも学びが広がる。
- ★小・中・高の連携活動により、地域全体の教育力が高まる。
- 地域住民が授業や探究に関わることで、地域への貢献意識の向上につながる。

## 令和7年度 社会教育委員の会議の内容

★：学校の魅力化につながる事

●：地域コミュニティの活性化・住民の幸福感につながる事

【第1回】令和7年8月27日(水)

〈講義「社会に開かれた教育課程の実現に向けて～県立高校でのコミュニティ・スクールの実践から～」と協議〉

山梨県立笛吹高等学校 校長 廣瀬 志保 氏

笛吹高校におけるCSの実践を通し、総合的な探究の時間を核に、地域住民・企業・行政と継続的に協働することで、生徒の主体性や自己肯定感を高め、学校の魅力化と地域課題解決を同時に進める手法について学んだ。

【委員からの意見】

- ★保護者や地域人材を生かすことで、高校段階の学びが大きく広がる。
- ★地域との協働が、生徒と住民双方の成長や充実感につながる。
- 小・中・高の連携により、地域の一体感が高まる。

【第2回】令和7年12月10日(水)

〈CSモデル校の取組中間報告と授業参観〉

〔中間報告〕松任高等学校

松任高校におけるCSの取組についての中間報告では、既存の総合学科や探究活動をCSの取組として関連付け、地域振興と防災を柱に、商店街・企業・行政・図書館等と連携した実践が紹介された。

【委員からの意見】

- ★防災を軸に地域人材や施設と連携することで生徒の主体的学びと学校の魅力化が進む。
- 生徒と地域住民が共に学ぶ場が、住民の自己有用感や交流を促し地域活性化につながる。
- 公民館をはじめとした地域の情報発信を工夫することで、地域住民がCSや学校の取組に関わる機会の裾野を広げる必要がある。



【第3回】令和8年1月19日(月)

〈CSモデル校の取組中間報告と協議〉

〔中間報告〕寺井高等学校 鹿西高等学校

寺井高校・鹿西高校におけるCSの取組についての中間報告では、地域と連携した探究活動や防災学習、企業協働の実践が紹介された。香山氏からは、総合的な学習・探究の時間を軸に、地域人材の参画により生徒の主体性や学力を高め、学校の力を高めるCSの意義を示された。

【委員からの意見】

- ★探究学習と地域協働が、進学・就職双方に有効で学校の魅力化につながる。
- 地域の大人との関わりが、生徒の自己肯定感と住民の自己有用感を高める。
- 公民館・青年団・婦人団体等と連携し、住民がCSや学校の取組に関わる機会を拡大すると共に、地域の諸活動へ参加を広げていくことが、地域活性化に不可欠である。

【第4回】令和8年3月10日(火)

〈令和6・7年度の協議題のまとめについて協議〉

2年間の取組についてふりかえり「ウェルビーイングの実現を目指した学校を核とした地域づくり」の今後の展開と展望についての協議した。

【委員からの意見】

- ★探究学習や地域課題解決学習を、小・中・高で段階的に積み上げることが重要である。
- ★地域との協同的な活動は、学校と地域のつながりが強め、挑戦・自己調整といった非認知能力の向上につながる。
- 地域活動、伝統文化継承につながる。
- 地域と学校だけでは解決が難しい課題があるため、行政との連携が不可欠である。
- CSの概念をより分かりやすく説明する必要がある。
- ★●外部評価・第三者関与の仕組みを整備することがCSの実効性と信頼性を担保する。

「学校のさらなる魅力化」を進めるために

## ★生徒の主体性を引き出す探究活動の充実

生徒が問いを持ち、自ら考え行動できるような学びを進める。

祭りや伝統芸能と一緒に参加できる場を設け、学んだことを実践で試す機会を増やし、地元に関心を持ち、戻ってきやすくなる環境づくりを進める。高校の学びもその連続性として捉え、つなげる学びを構築する。

## ★地域協働による学校の独自性強化

防災・地域の伝統や行事・探究など、学校の強みを継続的に深化する。

公民館等とも連携して学校と地域住民をつなぎ、顔見知りになれる学びの場の拡充を図る。また、地域の課題解決に取り組む中で育つ意欲や実践を進学や就職に活かせるよう、その成果が評価・進路に適切に反映される仕組みを求める。

## ★無理なく続く関係づくりと継続の仕組み

主体性や地域との関わりが継続できるようCSの仕組みを整える工夫が必要である。

学校の取組が人事異動に左右されないよう、地域・保護者が継続的に支える土台を重視し、対話と合意形成の仕組みを整え、授業や行事で人手・場所・専門知識が急に必要になった際にも即応できる体制をつくり、地域の力で学校と家庭以外にも、子どもが安心できる場所を増やす。

「地域の活性化・住民の幸福感」につなげるために

## ●学校と地域をつなぐ“熟議の場”

学校がお願いするだけではなく、共に考える関係づくりが必要である。

「おらが町の学校」という当事者意識を地域で共有し、保護者・住民が誇りをもって関わることで、地域の結束と満足度の向上につながる。

## ●交流による地域貢献の実感と生きがいの創出

子どもに教える・子どもを支える経験が、大人の幸福感につながる仕掛けとなる。

挨拶運動や郷土料理の継承、防災活動などを学校と共に行うことで、教える・支える経験が大人の貢献実感や生きがいを高め、文化継承と地域の誇りにつながる。また、世代間交流を通じ、地域の中で人の役に立っていると感じられる機会と生きがいを育み、幸福感を高める。

## ●行政を含めた“町ぐるみ”の関与

学校を地域資源と捉え、地域で支える意識や体制づくりが必要である。

駅清掃など地域で活躍する小・中・高校生の姿を町の誇りとして大切に受け止め、自治体として企業見学や活動の受け入れを続けながら、学校との連携を一層深めていく。また、公民館・町会・地域団体と学校との横の連携を深め、高校段階で薄れがちな地域とのつながりを補い、学びと地域を結び直す役割をCSは担える。

## ～県立学校CSモデル校3校の挑戦（R7・R8年度）～

## 松任高等学校

「地域で学ぶ、地域と学ぶ  
～松任高校CSプロジェクト～  
1年目の取り組み」

「地域で学び地域と学ぶ」CS理念をもとに、当事者の連携と協働によって学びの深化と地域課題の解決を目指す。総合的な探求の時間では地域振興や防災をテーマに、生徒の当事者性を高めるとともに、地域とともに未来を拓く人材の育成を進めている。

## 寺井高等学校

「地域とともにある寺井高校の  
挑戦～つながる・つづける：  
地域を愛し、地域から愛される  
人財の育成～」

地域と学校がともに歩むという能美市のCS理念を体現する学校づくりを目指す。挨拶指導や地域交流による人間関係づくり、能美市との防災連携、職場体験によるキャリア教育を深化させ、生徒が地域を愛し、地域から愛される人材の育成を進めている。

## 鹿西高等学校

「『日本一 生徒が伸びる  
鹿西高』の取り組み」

地域とともに生徒を育てる体制を強化し、郷土を愛し、将来は地元に戻って活躍したいと感じる人材の育成を目指す。総合的な探究の時間では地域資源を活かした探究や起業家教育、外部発表を推進し、生徒の学びが進路選択や将来の志の形成へとつながる取組を進めている。

